

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年12月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502447		
法人名	佐々木産業有限会社		
事業所名	グループホーム あげぼのあゆみホーム		
所在地	広島県福山市曙町五丁目5番25号 (電話) 084(954)5704		
自己評価作成日	令和元年12月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471502447-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471502447-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年12月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

庭には季節の花や野菜を入居者と一緒植え育てることができ、また食材として頂くこともできる。バリアフリーの平屋建てに2ユニットあり、ユニット間を行き来できるようにしている開放的で家庭的な雰囲気の空間づくりを行っている。個々の生活機能モデルの出来ること出来ないことをアセスメントし「尊厳」と「安全で安心できる」「その人らしさ」を大切にされた個別援助を行っている。そして、気持ちよい排泄を目指して、排泄ケアの研修会に行き伝達講習を行い実践に繋げている。南海トラフ地震・水害対策として敷地内に鉄筋の避難所を作り、訓練・備品等の充実に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「排泄ケア」について力を入れており、排尿日誌の記録を基に入居者個々に応じた排泄パターンを把握し、トイレ誘導の時間を見直したり、コスト軽減や不快感のないようパットの見直しを図るなどしている。また、食物繊維の多い食べ物を提供し、自然排便への取り組みも行っている。運営推進会議は報告や情報交換に加えテーマを決め実施しており、幅広いメンバーの参加があり、出席者より意見をいただき、運営に活かすことができている。地震・水災害対策として、敷地内に高台（4m）の避難所を作るとともに、マニュアルの整備、避難訓練の実施、発電機、食料、布団などの数多くの備えもあり、非常災害時の対応についての体制を整えている。各ユニットの建物の前にそれぞれ畑があり、ウッドデッキからの出入りもしやすく、季節の花や野菜を植え育て、自然を感じることが出来る環境にあるとともに、職員とともに収穫もしている。

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝職員は理念を発声し意識の喚起とケアプランの実施に配慮している。理念に沿った個人目標を決めて行っている。	5年前に基本理念の見直しを行い、職員が意見を出し合った上で実践に沿った内容になっている。また、理念を基に事業所の年間目標、全職員対象に個人目標を立てている。個人目標は半年に1回ホーム長を交えて職員が振り返りを行っている。理念を実践に活かせる体制を整えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一斉清掃に参加している。学区の文化祭に作品を展示して、参加している。高評価である。地域の防災訓練に参加している。	バラ祭りの際ブリガリア共和国の「バラの女王」が毎年事業所を訪問し、地域の方が多く見に来られることや、避難訓練に地域の方の参加もある。また、地域の祭りの際、こども神輿が事業所に寄ったり、散歩時に公園で保育園児と触れ合うなど、地域のつながりの機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	対応不十分で、課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族・市役所・地域の関係者にホームの取組み状況を報告し、入居者の立場に立っての取組みを評価して頂いている。	運営推進会議には、家族、市役所職員、地域包括支援センター職員、老人会長、組長、民生委員など幅広く参加がある。会議では事業所の取組み、利用状況などを伝えるとともに、テーマを決め資料をつくり実施している。その中で職員の個人目標の設定や、災害対策など意見をいただき、運営に活かした事例がある。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	日頃から、課題等の相談に応じて頂いて運営に助かっている。ケアサービスの取組みについては、運営推進会議の時に、積極的に伝える様になっている。	運営推進会議に市役所、地域包括支援センター職員が参加されるため、事業所の実情、取組みは直接伝えることができ、意見交換も図られている。また、生活保護受給者対応の事業所であり、保護課の職員とも連携をとっている。今後、よろず相談を考えており、地域包括支援センターと相談しながら行う予定である。	

自己評価	外部評価	項 目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業主としては身体拘束等行動抑制を廃止する方針を示しているが、切迫・非代替え・一時性の対応は本人・家族へ説明と同意を基本としている。	定期的実施される身体拘束廃止委員会で、スピーチロックを含め、職員で振り返りを行い、「身体拘束をしないケア」について正しい理解をし、実践につなげている。転倒などのリスクのある利用者については、会議などを通じて話し合い、ケアの工夫によって対応を行うように努めている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は研修会に参加し理解を深めホーム内で伝達研修を行っている。個人面談を行い話を聞くようにしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者一名が成年後見制度を活用し補佐人による金銭管理などの支援を受けている。月1回の面会で本人との関係性を深めるよう努められ本人も信頼して支援を受け入れている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文章で入所時に説明し、理解を得ている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に家族・入居者の参加を得て意見等を聞く機会を持っている。また、日常の中で入居者の発した言葉を大切にケアに活かせるように心がけている。	運営推進会議や日頃の面会時においても家族の意見を伺うようにしている。事業所の見守りカメラ設置について運営推進会議で意見を頂いたり、外食、外出の希望をいただき、運営に活かした事例がある。入居者には日頃の関わりの中から、意向を探るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月全体会議を設け運営方針の説明、現場の意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>定期的な会議や日頃の業務の中での職員の気付きや意見を聞くようにしている。また、年2回職員の個別面談を実施している。退職金制度導入についての提案や研修参加、個別での外出などの行事計画の意見など様々である。職員の声に耳を傾け、運営に反映させる体制に努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>1. 介護度の軽減・努力者に対する支援策がある。</p> <p>2. 定期的に評価基準を設け、給与支援策(入社6年目より3年毎)がある。</p> <p>3. 介護福祉士取得と勤続年数で、給与支援策が10月より始まった。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>1. ホーム外研修参加後の伝達講習を実施。</p> <p>2. 資格取得費用の支援をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>管理者や職員が、交流ができるように勉強会などに参加するように、会議で声掛けをしサービスの質の向上に繋がるように取り組んでいる。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面接を行い困りごとや不安なこと、要望などを把握。入居後はホームでの生活になじめるようにコミュニケーションを深めている。初期に現れやすい帰宅願望に対しては親身に傾聴。会話や暮らしぶりなどを介護支援記録に詳細につけ、課題やニーズを明らかにして、親身なケアの実践により信頼関係の構築に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族と事前面接を行うとともに、入所後介護支援記録を詳細につけ、課題やニーズを明らかにして、それについて家族の意見・要望をケアプランに反映させている。家族へのフィードバックも行い、共に支えていく立場で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームに見学、申込時に他事業所のサービスについても説明をしご家族が最適なサービスが選択できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	コミュニケーションをよくとり、生活の中での喜びや困りごとなどを共感的に受容するよう努めている。能力を活かして自分でできることはしてもらい、それができた時には、「上手にできましたね」などと、できたことを互いに喜び合う関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	課題やニーズを家族と共有し、家族としてできることを提案している。本人が生活しやすくなるための衣類や寝具、水分摂取量が少ない人のための本人が好む飲料などを家族に提案し持参してもらっている。なかなか解決できない課題について、家族に実情を伝え生活歴などをふまえた知恵を提供してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や親戚、友人などがいつでも気兼ねなく面会に訪れることができるように努めている。スタッフは面会者に笑顔で礼儀正しく接し、本人の暮らしぶりなどを伝え、お茶などの接待もして、「また来よう」と思ってもらえるように努めている。	家族、友人等の面会時には意向を伺いながら居室かフリースペースなどでゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。近所の買い物に付き添うことや、家族との外出、外泊などもあり、馴染みの人や場の関係が継続できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が互いに気遣い合い支えあう関係となるよう、様々な生活場面で意識的に取り組んでいる。気の合う方同士を隣の席にしたり、居室で過ごされがちな方へは訪室し話をしたり、リビングへと誘い孤立しない様援助している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了の殆どは病気による長期入院で、その後ほどなく亡くなるケースが多い。入院中はお見舞いするなどして関係性の持続に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で本人の本音をくみ取れるように努めている。意思疎通が困難な方はスタッフで意見を出し合っている。	入居者の暮らし方や生活習慣を把握した上で事業所での生活での意向や思いを探っている。花の水やりや食事準備など本人の生活歴を活かした取り組みを行っている。また、座位保持についてクッションの使用を見直すなど個々の状態を観察し、意向や思いを探り実践に活かせるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用時にこれまでの生活歴をききとりをおこなっている。日々の生活の中で本人に昔話として、これまでの生活や趣味・嗜好を聞き出す努力をしている。入所時にはそれまで利用していた施設からサービス情報を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護支援経過記録により、一日の生活状況、食事・水分摂取量、排泄、体温・血圧をはじめ、本人の発言や心理状態が具体的に把握できるようにしている。特に大事な情報を全職員が把握するために、朝の申し送りを行うとともに、「業務日誌」をつけてサービスに入る前に読むようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	常にスタッフは情報を共有し3ヶ月に1度カンファレンスを行っている。医師は往診時にご家族は来所時に意見を頂いている。	本人、家族の意向を踏まえ、日頃の入居者の状況を記録し、課題を明確にした上で、介護計画作成者が介護計画を作成している。入居者の強みや取り組めることが含まれ、現状に即した計画になっている。モニタリングは定期的に行い、必要に応じ修正し、次の介護計画作成に活かしている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護支援記録・申し送りノートに勤務別に記録し、全スタッフが目を通して情報を共有している。ケアプランにもとづくサービスの実施状況とその結果、本人の言葉、暮らしぶりなどを記入。スタッフが常に読み返すことができるようにしている。記録にもとづき課題やニーズを明らかにしスタッフ間で話し合っケアの改善や工夫に努めている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	基本として、当ホーム以外のサービスは利用していないが、家族の要望には柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	子供神輿・文化祭に作品を展示する等の参加をしている。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診診断</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にご家族の希望のうえ、かかりつけ医を決めている。ホームの連携医は2週間に1度往診がある。入居前からの主治医の時には、受診時に手紙で連携をとるようにしている。どちらも24時間対応してもらえる体制をとっている。	入居時に家族に意向を確認し、かかりつけ医を決めており、往診のある事業所の協力医に変更される場合が多い。歯科や皮膚科についても往診が可能であり、その他の科の受診については家族の対応が難しい場合は、事業所で付き添い、送迎を行っている。安心して医療を受けられる体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項 目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	かかりつけ医のセオ病院と連携し、担当看護師と週1度、情報交換や状態の確認を行っている。24時間電話でも相談できる体制を整えている。それにより看護師と利用者の健康状態を緊密に共有でき、適切な医療を受けることができている。それらの経過や情報は家族にも連絡し、意見を聞いている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはスタッフが付き添い、情報提供を行い、入院中はご家族の不安等の相談に応じ、退院時は病院よりホームでの生活上の注意点の情報を貰っている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用時にご家族へ十分説明をし同意を得ている。状態の変化があればその都度ご家族と相談をしながら、出来る限りホームで支援していけるように、医療関係者の協力を得ている。	入居時に重度化、終末期の事業所の対応、できることについて説明し、家族の意向を伺っている。医療的依存度が低く、事業所で看取りを希望される場合は考慮する形となる。事業所で対応が可能な場合は家族、かかりつけ医、訪問看護師と連携を図りながら、職員で統一したケアで支援している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故発生時に対応するため、ユニット会議等で話し合い、すべてのスタッフが行動できるようにしている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を実施し、スタッフ、利用者全員参加で行っている。訓練には、地域の方にも参加の声掛けをしている。地震・水害対策の避難所があるので、訓練を通して有効な活用を行っている。	年に2回避難訓練を実施し、その際消防署の協力や地域の住民の参加もある。災害に備えて、鉄筋の避難所の設置や発電機、食料、布団、ランタン、トイレトペーパーなどの備えもある。地域の防災訓練の参加や、緊急時に備え職員に連絡網の配布も行い、災害に対する意識が高い。	



自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格・特性・生活歴を理解し個別に利用者にあった声掛けと個人の人格を尊重することを常に心がけて対応している。	接遇やプライバシーの確保についても内外の研修に参加したり、会議、委員会等の場で職員自身の言葉遣い、態度などの接遇面についても職員の振り返りを行っている。人格を尊重した言葉かけや、排泄時のトイレの見守りを最小限にするなどプライバシーの配慮にも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	集団生活のなかで1日の決まったスケジュールがあるもとの、たとえば「いま食べたくない」という人にはそれにとらわれず希望に応じて時間を遅らせるなど柔軟に対応している。また、ひとり一人に食べたいものをリクエストしてもらい、できるだけ希望のメニューが食べられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事は、起床が遅くなったり、そのとき食べなくなかったりしたときには、時間を少しずらしている。入浴なども今入りたくないと言う人には希望に添った対応をしている。就寝もどうしても眠れない人はテレビを観たり居室で過ごしたりしてもらい柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服は着心地が良く、色柄も季節に合ったその人に似あう物を選んで購入している。整髪に気を付け、女性も顔剃りをしたりローションをつけたりして美容に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものをリクエストしてもらい、みんなで美味しく食べる取り組みをしている。お好み焼きや焼き肉、たこ焼きなどをホットプレートで囲んで焼きながらみんなで食べたり、ホームの畑で利用者が収穫した野菜をスタッフといっしょに調理して食べたりしている。切り干し大根や干し柿も作ってみんなで美味しく食べた。	食事は手作りとし、湯煎する介護食を併用している。入居者の希望をメニューに反映させたり、喫茶店や、回転寿司に出掛けることもある。事業所の畑に季節の野菜を育ててあり、職員と一緒に収穫を行い、使用することもある。食事を楽しむことができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>必要な栄養を摂取できるよう、おにぎり、刻み食、ミキサー食、きな粉ごはんなどその人が食べやすいようにしている。気分のむらにより食事がすすまないことのある人には、好みの味の栄養補助食品を提供している。水分量を1日最低1000mlを目安にして摂取できるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>かかりつけの歯科医による口腔ケアに係る指導を受けながら、その人に合った口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>その人の能力や状態に応じて、できるだけ紙おむつや紙パンツを使用せず綿のパンツをはいて過ごすことができるように支援している。そうできない場合でも、その人の排泄パターンや習慣に合わせて適切にトイレに行く支援を行い、できるだけ失敗しないように支援している。</p>	<p>排泄の記録をもとに入居者の排泄パターンを把握し、個別支援を行っている。日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間ポータブルトイレを使用する入居者もいる。排泄動作については、ズボン、パンツの上げ下ろし、拭き取りなど、個々の入居者に応じ、可能なことはしていただき、自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄チャート・食事量・水分量を記録し、利用者に合わせた対応を決めている。外を歩いたり、体操、レクリエーション・お手伝い等体を動かしてもらう工夫を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者の希望の日数・時間帯に好みの湯加減で入浴できるように支援している。</p>	<p>入浴は利用者の希望に応じ週2～3回行っており、入浴をしない日にも全員清拭を行い、清潔に保てるように支援している。浴室から窓を開けると季節により花が咲いており、希望により眺めながらの入浴もできる。入浴剤や季節によりゆず湯も行い、入浴が楽しくなるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	夜間は安眠できるように、一人 ひとりの状況に合わせて、オムツ ・パッド交換や体位転換のやり方 、タイミングを工夫している。日 中、傾眠の強い時には居室で適 切にお昼寝してもらうなどして いる。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	ひとり一人の体調変化に気を付 け往診の時に主治医に報告し服 薬についての指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	外に散歩に行ったり、歌を唄っ たり、レクレーションをしたり、 好みのテレビ番組を観たり、一 人ひとりの楽しみ事ができるように 支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	個々の状態に合わせて、外散歩 を天気の良い日には行っている。 本人の希望で、ご家族と外食に 行けるように協力を得ている。	春にはお花見、秋にはバラ公園 に全体で出掛けており、外食、 買物、散歩などは主に少人数で の個別支援で行っている。家族 による自宅への外出、外泊も あり個々の希望に応じ、日常 的に戸外に出掛けられるよう 支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	ユニットで個人の預かり金の中 から、利用者の要望に応じて、 スタッフが買い物代行している。		

自己評価	外部評価	項 目( さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	トイレのわかりやすい表示、日付けや曜日がわかる日めくり、季節を感じることでできる壁飾りなどを工夫している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天窓から陽ざしが差し込み・明るい食卓を囲んで過ごしたり、ウッドデッキで、日光浴を楽しんで頂き、季節ごとの野菜の収穫を皆さんと喜び季節感を取り入れて心地良く過ごせるように工夫している。	入居者が作成した制作物や、行事の写真や季節を感じられるような飾り付けを行い、温かみ、彩りを感じられるよう工夫している。掃除も行き届いており、室温、湿度にも気を配り、居心地よく過ごせる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	家族の写真、仏壇、誕生日プレゼント、習字の作品、好きな歌の写真など本人の馴染みの物を居室にそろえている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物をできるだけ持参をお願いし、居室には家族の写真・プレゼントを置いてベッドから見えるように工夫をしている。本人にとって居心地のよく過ごしやすい空間になるようにしている。	本人、家族の意向を聞き、自宅で使い慣れた馴染みの物を持参され、テーブル、タンスなど思い思いの物を持ち込まれている。また、家族の写真や趣味の掲示物などを貼る入居者もおり、自宅同様の落ち着きが得られる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	場所の表記を分かりやすくしたり、危険が無く生活しやすいような配置を工夫している。また、日付を大きく掲示したり、季節を感じられるように花・絵を飾っている。		

V アウトカム項目( さくらユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝職員は理念を発声し意識の換気とケアプランの実施に配慮している。理念に沿った個人目標を決めて行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一斉清掃に参加している。学区の文化祭に作品を展示して、参加している。高評価である。地域の防災訓練に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	対応不十分で、課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族・市役所・地域の関係者にホームの取組み状況を報告し、入居者の立場に立っての取組みを評価して頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から、課題等の相談に応じて頂いて運営に助かっている。ケアサービスの取組みについては、運営推進会議の時に、積極的に伝える様になっている。		

自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業主としては身体拘束等行動抑制を廃止する方針を示しているが、切迫・非代替え・一時性の対応は本人・家族へ説明と同意を基本としている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は研修会に参加し理解を深めホーム内で伝達研修を行って。個人面談を行い話を聞くようにしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者一名が成年後見制度を活用し補佐人による金銭管理などの支援を受けている。月1回の面会で本人との関係性を深めるよう努められ本人も信頼して支援を受け入れている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文章で入所時に説明し、理解を得ている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に家族・入居者の参加を得て意見等を聞く機会を持っている。また、日常の中で入居者の発した言葉を大切にケアに活かせるように心がけている。		



自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月全体会議を設け運営方針の説明、現場の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1. 介護度の軽減・努力者に対する支援策がある。 2. 定期的に評価基準を設け、給与支援策(入社6年目より3年毎)がある。 3. 介護福祉士取得と勤続年数で、給与支援策が10月より始まった。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	1. ホーム外研修参加後の伝達講習を実施 2. 資格取得費用の支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者や職員が、交流ができるように勉強会などに参加するように、会議で声掛けをしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接を行い困りごとや不安なこと、要望などを把握。入居後はホームでの生活になじめるようにコミュニケーションを深めている。初期に現れやすい帰宅願望に対しては親身に傾聴。会話や暮らしぶりなどを介護支援記録に詳細につけ、課題やニーズを明らかにして、親身なケアの実践により信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	家族と事前面接を行うとともに、入所後介護支援記録を詳細につけ、課題やニーズを明らかにして、それについて家族と話し合い、意見・要望をケアプランに反映させている。家族へのフィードバックも行い、共に支えていく立場で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームに見学、申込時に他事業所のサービスについても説明をしご家族が最適なサービスが選択できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	コミュニケーションをよくとり、生活の中での喜びや困りごとなどを共感的に受容するよう努めている。能力を活かして自分でできることはしてもらい、それができた時には、「上手にできましたね」などと、できたことを互いに喜び合う関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	課題やニーズを家族と共有し、家族としてできることを提案している。本人が生活しやすくなるための衣類や寝具、水分摂取量が少ない人のための本人が好む飲料などを家族に提案し持参してもらっている。なかなか解決できない課題について、家族に実情を伝え生活歴などをふまえた知恵を提供してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や親戚、友人などがいつでも気兼ねなく面会に訪れることができるように努めている。スタッフは面会者に笑顔で礼儀正しく接し、本人の暮らしぶりなどを伝え、お茶などの接待もして、「また来よう」と思ってもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が互いに気遣い合い支えあう関係となるよう、様々な生活場面で意識的に取り組んでいる。たとえば、食事前の手指消毒や配膳をできる人にしてもらうことで、「どうぞ」「ありがとうございます」と言葉が交わされている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了の殆どは病気による長期入院で、その後ほどなく亡くなるケースが多い。入院中はお見舞いするなどして関係性の持続に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護支援経過記録により、一日の生活状況、食事・水分摂取量、排泄、体温・血圧をはじめ、本人の発言や心理状態が具体的に把握できるようにしている。特に大事な情報を全職員が把握するために、朝の申し送りを行うとともに、「業務日誌」をつけてサービスに入る前に読むようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方生活環境・価値観を大切にこれまでのサービス利用の経過等の把握に努め、個々の希望を尊重した生活を送って頂くように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護支援記録には、食事量、水分摂取量、血圧・体温、排泄状況などとともに、ケアプランにもとづくサービスの実施状況とその結果、本人の言葉、暮らしぶりなどを記入。スタッフが常に読み返すことができるようにしている。記録にももつぎ課題やニーズを明らかにしスタッフ間で話し合っってケアの改善や工夫に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>常にスタッフは情報を共有し3ヶ月に1度カンファレンスを行っている。医師は往診時にご家族は来所時に意見を頂いている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護支援記録・申し送りノートに勤務別に記録し、全スタッフが目を通して情報を共有している。ケアプランにもとづくサービスの実施状況とその結果、本人の言葉、暮らしぶりなどを記入。スタッフが常に読み返すことができるようにしている。記録にもとづき課題やニーズを明らかにしスタッフ間で話し合っケアの改善や工夫に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>病院受診時の付き添い、ご家族に合わせて随時、医師からの指示に対応。オムツ・パッドの選定に際して個別に様子観察を行い時間をかけて選定、利用者の合ったタイプの物をそれぞれが把握し、記録に残して行くプロセスを経て、現在は、漏れも少なくなり、安眠優先</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医のセオ病院と連携し、担当看護師と週1回の往診だけでなく、24時間電話でも相談できる体制を整えている。それにより看護師と利用者の健康状態を緊密に共有でき、適切な医療を受けることができている。それらの経過や情報は家族にも連絡し、意見を聞いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時にご家族の希望のうえ、かかりつけ医を決めている。ホームの連携医は2週間に1度往診がある。入居前からの主治医の時には、受診時に手紙で連携をとるようにしている。どちらも24時間対応してもらえる体制をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	かかりつけ医のセオ病院と連携し、担当看護師と週1度、情報交換や状態の確認を行っている。24時間電話でも相談できる体制を整えている。それにより看護師と利用者の健康状態を緊密に共有でき、適切な医療を受けることができている。それらの経過や情報は家族にも連絡し、意見を聞いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはスタッフが付き添い、情報提供を行い、入院中はご家族の不安等の相談に応じ、退院時は病院よりホームでの生活上の注意点の情報を貰っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用時にご家族へ十分説明をし同意を得ている。状態の変化があればその都度ご家族と相談をしながら、出来る限りホームで支援していけるように、医療関係者の協力を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故発生時に対応するため、ユニット会議等で話し合い、すべてのスタッフが行動できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を実施し、すたっふ、利用者全員参加で行っている。訓練には、地域の方にも参加の声掛けをしている。地震・水害対策の避難所があるので、訓練を通して有効な活用を行っている。		

自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格・特性・生活歴を理解し個別に利用者にあった声掛けと個人の人格を尊重することを常に心がけて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	集団生活のなかで1日の決まったスケジュールがあるもとの、たとえば「いま食べたくない」という人にはそれにとらわれず希望に応じて時間を遅らせるなど柔軟に対応している。また、ひとり一人に食べたいものをリクエストしてもらい、できるだけ希望のメニューが食べられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事は、起床が遅くなったり、そのとき食べなくなったりしたときには、時間を少しずらしている。入浴なども今入りたくないと言う人には希望に添った対応をしている。就寝もどうしても眠れない人はテレビを観たり居室で過ごしたりしてもらい柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服は着心地が良く、色柄も季節に合ったその人に似あう物を選んで購入している。整髪に気を付け、女性も顔剃りをしたりローションをつけたりして美容に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものをリクエストしてもらい、みんなで美味しく食べる取り組みをしている。お好み焼きや焼き肉、たこ焼きなどをホットプレートで囲んで焼きながらみんなで食べたり、ホームの畑で利用者が収穫した野菜をスタッフと一っしょに調理して食べたりしている。切り干し大根や干し柿も作ってみんなで美味しく食べた。		

自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	必要な栄養を摂取できるよう、おにぎり、刻み食、ミキサー食、きな粉ごはんなどその人が食べやすいようにしている。気分のむらにより食事がすすまないことのある人には、好みの味の栄養補助食品を提供している。水分量を1日最低1000mlを目安にして摂取できるよう支援している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	かかりつけの歯科医による口腔ケアに係る指導を受けながら、その人に合った口腔ケアを行っている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	その人の能力や状態に応じて、できるだけ紙おむつや紙パンツを使用せず綿のパンツをはいて過ごすことができるように支援している。そうできない場合でも、その人の排泄パターンや習慣に合わせて適切にトイレに行く支援を行い、できるだけ失敗しないように支援している。		
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	腸の働きを促すために腹部マッサージをし、毎日おやつにヨーグルトを提供している。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	それぞれの利用者の希望に合わせて日数・時間帯を決め湯加減も好みに合わせている。拒否のある方も声かけや入るタイミングを考慮していて、状況に応じて入浴して頂いている。浴槽につきながら、窓を開けて外を眺め季節を感じられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	夜間は安眠できるように、一人 ひとりの状況に合わせて、オムツ ・パッド交換や体位転換のやり方 、タイミングを工夫している。日 中、傾眠の強い時には居室で適 切にお昼寝してもらうなどして いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	ひとり一人の体調変化に気を付 け往診の時に主治医に報告し服 薬についての指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	花鳥風月を愛でたり、歌を唄っ たり、畑仕事をしたり、好みの テレビ番組を観たり、広島カー プを応援したり、一人ひとりの 楽しみ事ができるように支援し ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	家族から本人がホームで使える お金を預かり、近くの店へおや つを買いに行ったり、服を選び に行ったりする支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	ユニットで個人の預かり金の中 から、利用者の要望に応じて、 スタッフが買い物を代行してい る。また、自分で買い物をした い方はスタッフが付き添いに行 っている。		



自己評価	外部評価	項目( ひまわりユニット	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	トイレのわかりやすい表示、日付けや曜日がわかる日めくり、季節を感じることのできる壁飾りなどを工夫している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天窓から陽ざしが差し込み・明るい食卓を囲んで過ごしたり、ウッドデッキで、日光浴を楽しんで頂き、季節ごとの野菜の収穫を皆さんと喜び季節感を取り入れて心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	家族の写真、仏壇、誕生日プレゼント、習字の作品、好きな歌の写真など本人の馴染みの物を居室にそろえている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物をできるだけ持参をお願いし、居室には家族の写真・プレゼントを置いてベッドから見えるように工夫をしている。本人にとって居心地のよく過ごしやすい空間になるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	場所の表記を分かりやすくしたり、危険が無く生活しやすいような配置を工夫している。また、日付を大きく掲示したり、季節を感じられるように花・絵を飾っている。		

V アウトカム項目( ひまわりユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあけぼのあゆみホーム

作成日 あけぼのあゆみホーム

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念に沿った目標の振り返りがなかなかスムーズに出来ていない。	理念に沿った個人目標を立て, 実践し振り返りを行うことができる。	・個人目標の振り返りを年に2回行う。 ・研修に年1回は参加する。	2021. 1. 31まで
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄に#

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。